

第3章 イスラム原理主義集団ハマスは、イスラエル 謀略組織モサドにまんまと「のせられた」!?



Israel bombing 'everything but Hamas in Gaza' (イスラエルはガザ地区すべてを爆撃!
ただしハマスの拠点を除いて! やはりハマスをつくったのはイスラエル!?)



大富豪イーロン・マスクがネタニヤフを批判
「ガザの子ども大量殺戮はハマスを強くする」
<https://www.rt.com/news/587018-elon-musk-israel-hamas/>

1

ハマスがイスラエルに奇襲攻撃をかけた結果、世界の眼は一瞬にしてウクライナからガザに移ってしまいました。アメリカの代理戦争を戦ってウクライナが負け戦を強いられていた事態から目を背けさせる戦術として、これほど見事な戦術はなかったでしょう。

しかしバイデン大統領にしてみたら「やったぜ!」と思っただかもしれません。

またネタニヤフ首相にしても、自分の権力を強化するために法改正をした結果、イスラエル軍兵士までも抗議運動に法改正をした結果、イスラエル軍兵士までも抗議運動に参加するようになり窮地に陥っていた事態が、ハマスのように「ハマス様様」でした。すから、まさに「ハマス様様」でした。

多くの人から、これは「やらせ」だったのではないかと疑われるゆえんです。まして、パレスチナ解放運動を率いていたPLOと闘わせるために、ハマスというイスラム原理主義勢力を育てたのがイスラエルだったのですから、なおさらのことです。

これは、「分裂させて支配する」という権力者の常道です。

* Israel bombing 'everything but Hamas in Gaza' (イスラエルはガザ地区すべてを爆撃! ただしハマスの拠点を除いて! やはりハマスをこけたのはイスラエル)
<https://www.theguardian.com/world/gaza>

このようにアメリカとイスラエルの戦術は成功したかに見えますが、今度のガザの事態は、自称「神に選ばれた民」と自称「神に選ばれた国」の、醜さ・非道さを世界中に見せつけることになってしまいました。

しかも、今までは反目し合っていたイランとサウジアラビアを「イスラム共同戦線」というかたちで手をつなぐきっかけを与えることにもなっていました。「分裂させて支配する」ことに成功していたイランとサウジアラビアに、団結する口実を与えてしまったのですから、皮肉なことです。

この事態が今後どのような展開になっていくのか予断を許しませんが、アメリカ主導のロシア制裁に加担してこなかった多くの発展途上国（いわゆる「グローバルサウス」と言われる国々）も、今度のイスラエルによるガザ殺戮に不快感を示していることは、興味深い状況です。

これは「ウクライナにおける負け戦」と相まって、帝国アメリカの「終わりの始まり」になるかもしれません。しかし、そのような国の属国として忠実に行動している岸田政権を見ていると、日本の未来がおおいに心配になります。

一刻も早く前章「アメリカによる色彩革命」クレーター」の続きについて書きたいのですが、雑事に追われて時間がとれません。

その一方で自称「神に選ばれた民」（ユダヤ人）が、自称「神に選ばれた国」（アメリカ）の支援を受けて、「ガザ地区パレスチナ人」への虐殺が終わりません。

そこで仕方なく、イスラエルの「ガザ殲滅作戦」を考える（統）を書くことにしました。

ところが、そう思っていた矢先に、せっかく中国主席の習近平（シー・ジンピン）が重い腰をあげてアメリカを訪問したというのに、バイデン大統領がその中国主席を「独裁者呼ばわり」するという珍事が起きました。

そんな失礼なことを会談直後の記者会見で言うくらいなら、初めから習主席をアメリカに招待しなければよだけの話で、バイデンという人物の世界的評価が一気に下落する事態となりました。

こんな人物を大統領にいただいているアメリカに未来はない、と誰しも思ったのではないのでしょうか。このことを報じたのが次の論評記事です。

* How Biden proved his incompetence at summit with Xi (バイデンは習近平との首脳会談でいかに無能を証明したか)
<https://www.rt.com/news/587565-biden-xi-summit-ctinge/> 18 Nov, 2023

この記事の副題は次のようになっていましたが、この記事には携帯で撮影したのであろう動画が付いて



いましたからブリンケン 国務長官の困惑している表情をぜひ見ていただきたいと思います。

* **“Even his own Secretary of State couldn't help but cringe at the US President's statements.”** (自らの国務長官でさえ大統領の発言には背^{そむ}きを隠せなかった)

<https://twitter.com/i/status/1725304180368093278> (動画18秒)

かつてブーチン大統領を「人殺し」と表して恥^はじなかつた大統領ですから、当然とも言えますが、いまガザで「大量殺戮^{さつりく}」民族浄化作戦を展開しているネタニヤフ大統領をバイデン氏はどう表現するのでしょうか。

4

ここで、もう一つ指摘しておきたいことは、首脳会談がおこなわれたサンフランシスコの現状です。

かつては「アメリカで一番美しい街」「花のサンフランシスコ」と言われていたサンフランシスコが、今ではホームレスが跋^は扞する汚らしい街に変わっているからです。

* **San Francisco's Post-Apocalyptic Hellscape Is on Full Display in This Viral TikTok Video** (サンフランシスコの黙示録的な地獄絵図がTikTokの動画(話題)) Nov 09, 2023

<https://www.zerohedge.com/medical/san-francisco-post-apocalyptic-hellscape-full-display-viral-tiktok-video>



私が一九八〇年代に初めてアメリカを訪れたときのニューヨークも、街路にゴミとホームレスが溢れていて実に危険で汚らしい街でしたが、それが今やサンフランシスコに代わってしまっています。

上の写真はこの記事に付けられていた動画（2分20秒）から切り取ったものですが、その生々しい実態は自分の眼で動画を確認していただきたいと思えます。

5

自分の国がこんなに荒れ果てているのに、それを建て直すためにお金を使わずに、ウクライナとイスラエルに惜しみない多額の援助をし続けているのがバイデン大統領なのです。

ところが皮肉なことにサンフランシスコで首脳会談がおこなわれるというので、慌てて街からホームレスを隠す作業を超特急でおこなったというのが次の記事です。

* San Francisco was ready to fix its main problem - not for Americans, but for Xi Jinping (サンフランシスコはアメリカ人のためではなく、習近平のために問題を解決する準備を整えた)
 〈副題〉 Homeless people suddenly disappeared from the Golden City's streets ahead of a major international summit (国際サミットを控えた黄金の街から突然ホームレスの姿が消えた)
<https://www.r1.com/search?q=San+Francisco> Nov 14, 2022

かつて、東京のあちこちの公園に野宿者のための青いテントが目立っていました。日本でも同じことがおこなわれた結果でしょうか、今はその光景が消えました。彼らはどこへ行ったのでしょうか。

岐阜でも「コロナ騒ぎ」のなかで橋の下に寝泊まりしていた野宿者が大学生とその友人に殴り殺された事件が起きました。そんな事件でも起きないと野宿者の姿が私たちの目に留まることはなくなったようです。

*岐阜でホームレス殺害事件（「百々峰だより」2020.12.25）
<http://trackraka.blog.fc2.com/blog-entry-399.html>

6

話がかなり横道に逸れたので、本題のイスラエル軍による「ガザ殲滅作戦」に戻ります。

イスラエル軍は自称「世界最高の諜報機関モサド」をもっています。その情報機関がイスラム原理主義勢力「ハマス」の奇襲攻撃に気づかなかったことはあり得ないことです。

ですから私がこのニュースを聞いたとき、直感的に「これは第2のパールハーバーだ」と思いました。というのはアジア太平洋戦争のとき日本軍はパールハーバーに奇襲攻撃をかけ大成功を収めたことされましたが、後の研究では奇襲攻撃は米軍に察知さちされていました。

先述したことです。アメリカ政府は国民が第1次世界大戦に懲りて反戦気分満ちていましたから、この気分を変えるためには何かのショックが必要でした。そこで「真珠湾」を攻撃させ国民の怒りをかき立てることにしたわけです。



つまり一種の「やらせ」だったわけですが、この作戦はみごとに成功し、日本政府はまんまとアメリカの罠にはまりました。

同じことがイスラエル軍とイスラム原理主義勢力「ハマス」にも起きたのではないかと私は思ったのです。この私の仮説を裏付けする情報がないかと探していたら、次の論考を見つけました。

* Is the Gaza-Israel Fighting "A False Flag"? They Let it Happen? Their Objective Is "to Wipe Gaza Off the Map".
 (ガザとイスラエルの戦闘は「偽旗」か？ イスラエルがハマスにそう仕向けた「やらせ」だったのか？ 彼らの目的は「ガザを地図上から消し去ること」：)
<https://www.dailymail.co.uk/Science/article-3383301/Is-the-Gaza-Israel-fighting-a-false-flag-they-let-it-happen-their-objective-is-wipe-gaza-off-the-map.html> November 04, 2023 By Philip Giraldi and Prof. Michael Chabrowsky

これはフィリップ・ジラルディ (Philip Giraldi) という元CIA情報官とオタワ大学名誉教授チヨスドフスキーの共著論文で、かなり長いのですが、その途中でエフラット・フェニグソン (Eirat Feningson) という女性の発言が引用されています。

その小見出しは次のようになっていました。

* This was Not a "Surprise Attack" (これは「奇襲攻撃」ではなかった)

元イスラエル軍の情報機関に25年間つとめたという女性の証言ですから信用性がありますし、しかも証言ビデオ(5分弱)までも付いていました。

しかも副題は次のようになっていて、その一部が文字起こしされていますから、節を改めて、それを

紹介したいと思います。

*元イスラエル諜報部員エフラット・フェニグソンの衝撃的告発！
「猫が1匹、国境のフェンスを歩いただけでも緊急出動するイスラエル軍が今回はなぜ!？」

7

さて、この元イスラエル諜報部員エフラット・フェニグソン女史は、このハマスによる奇襲攻撃について次のように語っています。

This was Not a "Surprise Attack"」これは「奇襲攻撃」ではなかった

私は25年間、イスラエル国防軍の情報部隊に所属していました。イスラエルがこの事態を知らなかったはずがありません。

1匹の猫が国境フェンスの横を移動するだけでも全軍の発動を引き起こします。であるにもかかわらず、どうしてこんなことが? 「世界最強の軍隊」に何が起こったのか?

なぜ国境が開かれていたのか? 何かがとても変です。この一連の出来事はとても異常で、イスラエルの防衛システムにとってあり得ないことです。

だから私には、この奇襲攻撃は計画された作戦のように思えます。あらゆる点で。

私が陰謀論者なら、これは「闇の政府 ディープ・ステート」の仕業だと言うでしょう。

イスラエルとパレスチナの民衆は、またしても上層部の権力者に欺されたような気がします。

御覧のとおり、イスラエル軍は自分を「世界最強の軍隊」と自負していますし、その諜報機関「モサド」も、「世界最高の情報機能」を誇っています。

そして「たった1匹の猫が国境のフェンスに沿って歩いただけでも、全軍が即座に警戒行動に移る体制になっている」と言います。

にもかかわらず今回のハマスによる奇襲攻撃は何の行動も呼び起こさなかったわけです。だとすると、ハマスの行動は「やらせ」以外に考えられないと彼女は言っているのです。

だからこそ、元CIA情報官フィリップ・ジラルディとオタワ大学名誉教授チョスドフスキーの共著論文の題名は次のようになっていたのでしょうか。

* Is the Gaza-Israel Fighting “A False Flag? They Let it Happen? Their Objective Is “to Wipe Gaza Off the Map” (ガザとイスラエルの戦闘は「偽旗」か？ イスラエル軍がハマスにそう仕向けた「やらせ」だったのか？ 彼らの目的は「ガザを地図上から消し去ること」?)

ちなみに、上記の論考にはエフラット・フェニグソン女史が運営しているブログへのリンクが貼られていて、彼女からのメッセージをもっと詳しく視聴できるようになっていました。

そこで、そのサイトを開いてみると、顔を見ながら彼女のメッセージを視聴できるだけでなく、そのメッセージが全文、「文字起こし」してあったので驚きました。時間と興味のある方は、ぜひ覗いていただければ幸いです。

<https://efratsubstack.com/p/israel-hamas-war-an-update> (動画6分50秒)